

# 漁業者との協調関係 について（私見）

afc.masa 代表  
宮原 正典

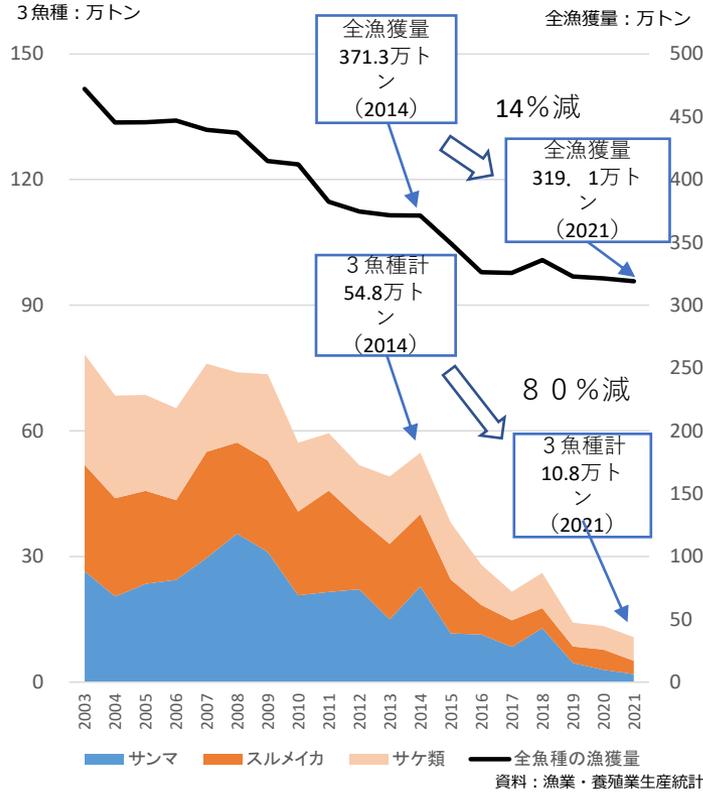


# 減少傾向にある資源（ダイジェスト）

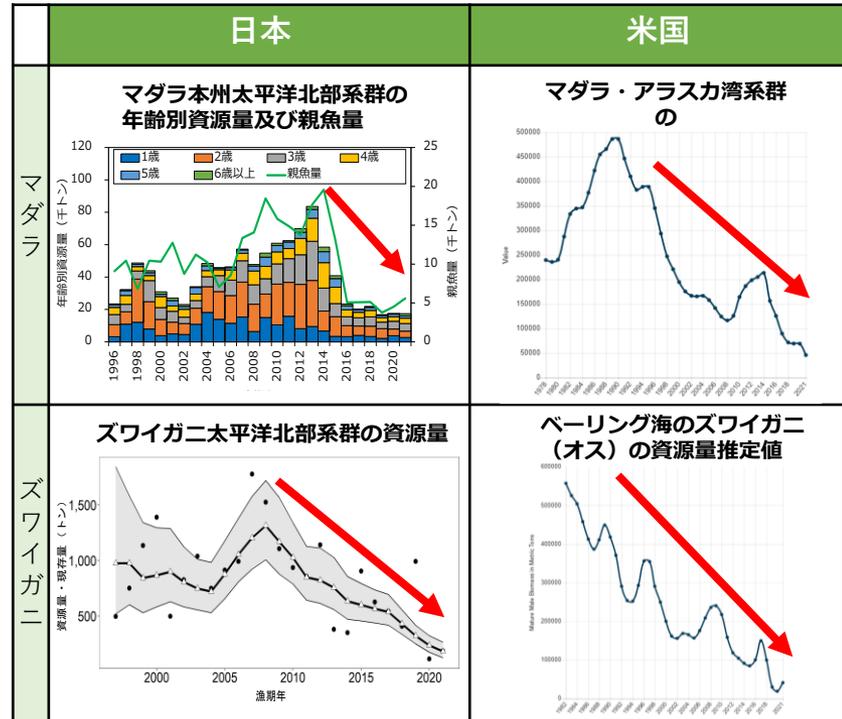


- サンマ、スルメイカ、サケの漁獲量は、引き続き減少傾向。
- 海洋環境の変化は、中層域～底層域の資源にも影響。2014年以降、状況は更に悪化。
  - ・マダラは、我が国太平洋側や米国アラスカ湾（2010年代の海洋熱波の影響）の資源が減少。
  - ・ズワイガニは、我が国太平洋側や米国ベーリング海（2017年に表面海水温上昇。2022年禁漁。）の資源が減少。

### 我が国漁獲量・3魚種漁獲量の推移



### 中～底層の資源の変化



資料：令和4年度資源評価

資料：米国海洋大気庁

# 漁業者との協調関係の基礎的条件

- 風車の周りで巻き網や底引きなど大型の漁業は操業できない。
  - 魚類養殖の生簀設置も風車の周りは避けるべき。
- 漁場と開発区域は基本的に共存しない。

では、どうすべきか？水産の世界で考えると

- はっきり住み分けた区域設定を検討する。
- 開発区域を藻場や稚魚育成場など資源に有益な水域として位置付ける。
- 開発区域で養殖を考える場合、貝類やワカメなど無給餌養殖とする。
- ブルーカーボンの要素を考慮する。

漁業と洋上風力発電とは住み分けることを前提として、海域利用計画を立てるべき。

その際考えるべきこと：

- 漁業は広い海域を全体を占有して操業するものではない。（漁場は限定される。）ただし風車の設置好適地と漁場が重なる場合が多いことに留意。
- 大臣許可漁業の場合、操業水域が都道府県を跨がる場合が多い。国のレベルで全国を視野に入れた広域な計画が必要。（そこには協力基金の利用の問題も含まれる。）
- 給餌養殖は通いやすい沿岸で行われるべき。
- いずれの場合も温暖化等の影響で漁場が年々変化しているので、データの収集の強化と迅速化が求められる。